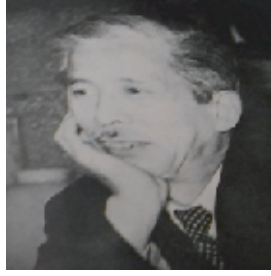


好奇心旺盛なB型

栄耀氏は、多彩な趣味人でもあった。「ガウンを着て帽子をかぶり、名古屋で絵を描いて歩いていました。ギターもやっていました。おやじは、名古屋では非常に大事にされまして有名人でした。だから先生はみな一流で、何でもやる。だけど、上手くなかったね(笑)」。

允氏は、愛情たつぷりの笑みを浮かべながら、往時に思いを寄せる。「というのね。本業は一生懸命やるけれど、本命以外は遊び。そういうのはつきりした性格だった(允氏)。栄耀氏の好物は、鮭の塩引きと蕎麦。お酒は嫌いで、ほとんど飲めなかったそうだ。

栄耀氏の横顔。
『余談亭らくがき』(都市美術家協会)より



さらに、栄耀氏が学生時代から好きだったのが落語。もっぱら聞く方だったそうだが、「寄席に行って帰ってくる、その日の最後のトリをやった人が、『今日のはいかがでしたか?』と必ず訪ねてきた(允氏)」というから、かな

りのもの。栄耀氏の葬儀では、5代目柳家小さん師匠が口演している。

写真では、見るからにスマートで、おしゃれで、撮影慣れしている印象の栄耀氏。「自分の弟子にプロがいて、撮られる方(栄耀氏)もしっかりしてたからね」と允氏は言う。口元のダンディなひげには、傷を隠す意図があったそう。だ。「おやじはひげを取ると格好悪いからって剃らなかつた。本当のことは分からないよ。見たことないから(笑)」(允氏)。

今回の訪問で、演出氏が特に聞きたかったのが、栄耀氏の血液型。允氏から「うちはみんなB型だよ。Bが強いんだ」と教えてもらうと、演出氏は「やっぱりそうですか! いやあ、私もB型です。いろいろやりたがるものですから、きつと同じじゃないかと思っていました」と感激しきりだった。



親子ともに受章した勲章。右が栄耀氏、左が允氏

年譜

1893(明治26)	石川栄耀氏誕生
1914(大正 3)	東京帝大進学 第1次世界大戦
1919(大正 8)	都市計画法公布
1920年代 (大正9-昭和4)	都市計画技師として名古屋へ 結婚、允氏誕生、欧米視察 関東大震災
1930年代 (昭和5-14)	東京に赴任 商業都市美協会を設立 2.26事件
1940年代前半 (昭和15-19)	防空都市計画の研究に着手 東京都へ 太平洋戦争 東京大空襲、敗戦
1940年代後半 (昭和20-24)	戦災復興計画立案 『私達の都市計画の話』発刊 目白文化協会を結成
1950年代前半 (昭和25-29)	日本都市計画学会が発足 早稲田大教授へ。全国で講演
1955(昭和30)	北陸出張中に倒れる、永眠(62歳)
1960年代 (昭和35-44)	所得倍増計画、全総 東京五輪、東海道新幹線
1970年代 (昭和45-54)	浅間山荘事件、沖縄返還 日本列島改造論、石油ショック
1980年代 (昭和55-平成1)	バブル景気 昭和の終わり、ベルリン壁崩壊
1990年代 (平成2-11)	バブル崩壊、阪神大震災 世界人口60億人超に
2000年代 (平成12-21)	9.11テロ、日本が人口減少へ 改正街づくり3法。都市縮小時代
2008(平成20)	『えいよう会』スタート
2010(平成22)	現在

文・構成／牧野洋久

写真／渡邊耕、牧野洋久

発行日／2010年12月21日

この冊子は、えいよう会ホームページからダウンロードできます。

<http://eiyoukai.la.coocan.jp/>

参考 ● 『都市計画家石川栄耀』 都市文献 ● 探求の奇跡 (鹿島出版会)

【編集後記】

都市に情熱を持ち、優秀な上に、お茶目で少々おっちょこちょい。そんな栄耀氏のお姿を目に浮かべました。「あなた方と会ったら、おやじは喜んだでしょうね」というお言葉にも感激です。厚かましいお願いにもかかわらず、お時間をいただき、石川様、渡邊様、ありがとうございました。(牧)

『えいよう会』は、東京・渋谷を中心に活動しているグループです。栄耀氏が1948(昭和23)年に出版した中学生向けの読本『私達の都市計画の話』(兼六館)をきっかけに、渋谷などに関わっている方々のつながりができたことから、栄耀氏のお名前を拝借させていただきまして、活動といっても、



メインは「飲み会」で、毎月飲むという以外はルールのない、ゆるやかな集まりです。2年半以上が経ち、徐々に参加者の幅も広がってききました。たまに旅行企画もやっています。栄耀氏が提唱していた「夜の都市計画」の実践として、盛り場をフィールドにのんびりと続けば良いなと思っています。